

論文審査の結果の要旨

氏名：伊 崎 聡 志

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：慢性特発性蕁麻疹患者における抗 IgE 自己抗体および抗 FcεRIα 鎖自己抗体の臨床的意義

審査委員：（主 査） 教授 橋 本 修

（副 査） 教授 後藤田 卓 志 教授 高 山 忠 利

教授 川 名 敬

慢性特発性蕁麻疹は慢性蕁麻疹の 50~75%を占めると報告されており、発生機序の解明の努力がされてきた。この中で血清中に自己抗体の存在が報告され、血清中自己抗体の慢性特発性蕁麻疹の病態形成における意義が注目されているが、その詳細は明らかにされていない。

このような背景から、本研究は慢性特発性蕁麻疹患者における自己抗体である抗 IgE 自己抗体および抗 FcεRIα 鎖自己抗体（抗 α 鎖抗体）の臨床的意義について検討し、血清中抗 IgE 自己抗体および抗 FcεRIα 鎖自己抗体測定の有用性について考察した研究である。臨床的意義については、血清中抗 IgE 抗体値および抗 FcεRIα 鎖抗体値と慢性特発性蕁麻疹の臨床症状、シクロスポリン治療の効果、自己血清皮内テスト (autologous serum skin test: ASST) との相関関係を検討した。その結果、血清中抗 IgE 抗体は慢性特発性蕁麻疹で高値を示したが、抗 α 鎖抗体は健常人と有意差を認めなかった。臨床的意義では、抗 α 鎖抗体の高値群は ASST 陽性であり、シクロスポリン治療が有効であった。以上から、本研究は、慢性特発性蕁麻疹の病態形成には抗 α 鎖抗体が関与し、血清中抗 α 鎖抗体測定は ASST の代替及びシクロスポリン治療の効果の予測に有用であることを示唆した。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成 29 年 2 月 22 日